

パンデミック対策を踏まえ、CBRN訓練を実施 *Yokota CBRN training adapts to pandemic constraints*

July 30, 2020

By Tech. Sgt. Thomas Smith
AFN Tokyo

7月22日、横田基地第374施設中隊緊急管理チームのメンバーは、新型コロナウイルスの感染リスクを抑えながら任務を続ける策として、化学・生物・放射性物質・核(CBRN)の訓練を野外で実施した。

「指導の内容はいつもと同じだが、環境が異なる。自分は、訓練生が図上訓練で集中を欠くことなく、重要なことを根本的に学べるこの環境の方が好きだ」と緊急管理技術者兼CBRNクラス指導官サミュエル・ペーカー一等空兵は述べた。

訓練生は社会的距離を保ちながら、基本的な脅威の知識、保護具の扱い方、CBRN環境で生き残るための行動を教えられた。

訓練では、CBRN攻撃への対応を想定し、制限時間内に任務に応じた防護服を着用する実践的な訓練が行われた。防護態勢装備を着用した訓練時の気温は、80°F(約27°C)、湿度86%まで上がった。

「社会的距離を保ちながらも、とても有意義な訓練を受けることができた。唯一、夏のこの暑さが大変だったが、現実的なシナリオでは夏に野外で任務することもありうるため、ある意味訓練の臨場感が増した」と、第374装備即応中隊装備支援担当下士官で訓練参加者のソンカ・ボンカムチャン技能軍曹は述べた。

クラス全体を通じて、指導官チームは、現実世界で対応するためにこれらの緊急事態への備えのスキルを維持することの重要性を強調した。

「敵は常に訓練を重ね、技術的にも向上している。自己満足に陥らないようにすることが重要だ」と緊急管理技術官兼上級指導官のアンドリュー・テイラー軍曹は述べた。

コロナ禍によるさまざまな制限がありながら、第374施設中隊の緊急管理専門官は柔軟に対応し、脅威にかかわらず使命を果たすための訓練を着実に積み重ねている。

